

環境県民フォーラムだよ！

VOL. 53 2024年10月1日 発行

新代表として～略歴と活動内容の紹介～

(代表 佐藤 孝則)

4月の総会で新代表に選ばれた佐藤孝則です。私のことをご存知ない方がたくさんいらっしゃると思いますので、私の略歴と私が所属する団体の活動内容について、以下で紹介させていただきます。ここで紹介させていただく内容は、総会の交流会で「新代表になって思うことー自己紹介もかねてー」と題しておこなった講演内容を、簡単にまとめたものです。

【略歴】

私は1952年に愛知県で生まれ、現在は72歳です。天理高校を卒業後、北海道新冠郡新冠町の競走馬育成牧場で牧夫として働き、その間に、1974年の桜花賞馬「タカエノカオリ」を育成しました。その後、当該牧場を退職して帯広畜産大学へ入学し、学部と大学院(修士課程)ではエゾシカの生態学的研究をおこない、新潟大学大学院(博士課程)ではエゾサンショウウオの生態学的研究をおこなって「学術博士」を取得しました。

職歴としては、帯広百年記念館(博物館施設)の学芸員としてオープン前から勤務し、11年間勤めた後、1993年からは天理大学おやさと研究所(自然・人間環境学研究室)で教員生活を始めました。そして、博物館学芸員と大学教員時代におこなった小型サンショウウオの研究成果として『北海道のサンショウウオたち』(2013年)を編著し、大学教員時代には二つのエコロジー(生態学とエコロジー)の視点から『二つ一つのエコロジー』(2011年)などを刊行しました。併行してNPO法人環境市民ネットワーク天理の理事長として、『20周年記念誌「エコシティ・天理」をめざして』(2020年)などを編著しました。

もう少し補足しますと、私は高校を卒業後、北海道の競走馬育成牧場で牧夫として働いていたときですが、幸運にも桜花賞馬を育てる機会を得ました。このような機会は滅多にないことでした。その年の春、私は帯広畜産大学環境学科(野生動物管理学研究室)へ入学し、当初の目的どおり、「馬鹿学」を始めるためにエゾシカの生態研究をスタートさせました。そして卒業論文ではシカの出産と新生ジカの行動について研究をおこない、修士論文のテーマとしては「エゾシカ糞の植物珪酸体による食性の研究」でした。

また新潟大学では、北海道に分布するエゾサンショウウオとキタサンショウウオの2種の小型サンショウウオを研究し、博士論文のテーマは「エゾサンショウウオの繁殖戦略に関する生態学的研究」でした。



1974年(昭和49年)の桜花賞馬タカエノカオリの記念写真。騎手は武邦彦氏(武豊氏の父)。左端は佐藤(当時22歳) (競馬データベースより)



出産直後のエゾシカの雌と、誕生49分後に親の乳房を探る新生ジカ。新生ジカはまだ立ち上がることもできず、歩行もできない状態。58分後には立ち上がることができた。(撮影日:1978年6月13日)



越冬場所から顔を出したエゾサンショウウオ



多数によるエゾサンショウウオの産卵



最後まで卵嚢に放精するエゾサンショウウオの雄

【活動内容】

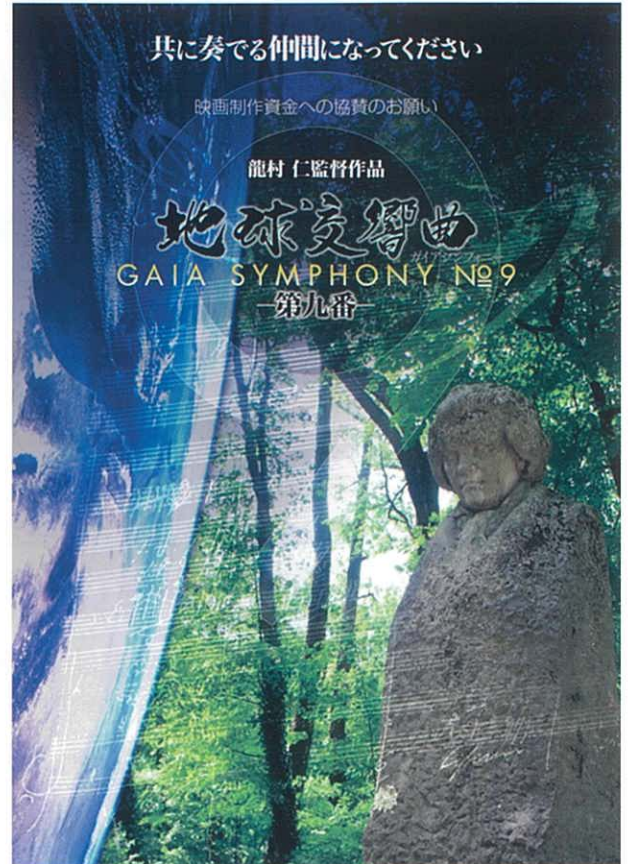
私が理事長を務める「NPO法人環境市民ネットワーク天理」は、1997年12月17日、「環境問題や環境保全活動に関心を持つ天理市内在住の一般市民、あるいは市内で商業活動等を営む個人または団体、さらに環境政策を実施する行政組織及び職員等が互いに連携を図りながら、天理市及び周辺地域の環境保全に協働して取り組む」ことを目的に天理市内で発足しました。ちょうど「COP3(気候変動枠組条約第3回締約国会議)」が国立京都国際会館で開催された時期と同じ12月でした。その後の2010年9月には新たに法人格を取得し、「特定非営利活動法人(NPO法人) 環境市民ネットワーク天理」に名称を変え、今日に至っています。

四半世紀におよぶ私たちの環境保全活動は、春の「布留川をきれいにしよう」、秋の「落葉かき」などの清掃活動のほか、布留川源流での「水源の森・里山づくり」、「ゲンジボタルの調査・観察会」、そして大和高原での「ヤマトサンショウウオ保全活動」などになります。また、天理大学との協働授業「まほろばエコロジー講座」の開講や環境イベント「天理環境フォーラム」なども、ステークホルダーとの協働事業として実施しています。

今年の秋、私たちは「天理環境フォーラム2024」を実施します。今回は、メインとなる映画「地球交響曲 第九番」の上映と、会場エントランスでの小規模「環境展」の開催となります。開催日は11月3日(日・祝)で、上映時間は10:30~と14:00~の2回、会場は天理大学9号棟(ふるさと会館)です。入場料は一般が500円で、大学生以下は無料です。駐車場は、天理大学に隣接する天理高校の南東(「西山古墳」横)にある駐車場を予定。この駐車場は大学の施設外になります。この映画の上映は、当「環境県民フォーラム」会員の「リサイクルクラブ天理」が、発足30周年を記念しておこなう事業でもあります。

映画「地球交響曲」そのものは、これまで8作が上映されましたが、今回は昨年1月2日に逝去された龍村仁監督の最終作品となります。「地球交響曲」は別名「ガイアシンフォニー」と言われます。おそらく英科学者、ジェームズ・ラブロックが提唱した「ガイア理論」と深い関係があると考えます。この理論は、地球をまるで一つの生命体と捉え、大小さまざまな生命体と岩や川などの無機物が相互に関連しあって地球を形成している、という考え方です。例えば、河川の本流や支流は、人体でいえば動脈や毛細血管のように、地球という生命体を維持するために必要な栄養物などを運ぶ大切な生命線だ、という考え方です。

地球上に生きるおよそ3,000万種といわれる生物は、生息する有機・無機環境の中で世代交代を繰り返しながらこの繊細な地球を維持しています。このことを、この映画は私たちに強く訴えかけているのではないかと私は思います。それは、地球に生きる生きものは、それぞれが得意な楽器を弾きながら一つの「地球」を奏でる「交響曲」の演奏者だ、ということです。



賛助会員募集

奈良県環境県民フォーラムでは賛助会員として活動をご支援いただける企業、団体等を募集しています。当フォーラムの活動をご理解いただき、賛助会員としてご支援下さいますよう、お願い申し上げます。

特典

1. 広報誌「フォーラムだより」等刊行物をお届けします。
2. ホームページに随時氏名(ご希望の方)を掲載いたします。
3. 主催事業(省エネクッキングなど)に優先的にご参加いただけます。



奈良県エコキャラクター
な〜らちゃん

フォーラムだよりの
バックナンバーは
こちらから



エネルギー 分科会

「三木リサイクルセンター」見学会を開催

2月19日、資源活用分科会との共催で、兵庫県三木市にある大栄環境(株)三木リサイクルセンター見学会を開催し、関係者17名が参加しました。施設許可能力は1日あたり約14,000tで、各種リサイクル法に対応した総合リサイクルセンターです。既設炉では、800kWhの発電を行い既設炉の消費電力の半分を賄っています。

最新の技術を活用し、廃木材や食品残渣等のバイオマス資源と廃棄物を混焼するバイオマスファクトリーでは、11,700 kWhの発電を行っており、各種施設に電力を供給しています。バイオマスファクトリーで発電した電力の約1/4が各種施設に供給され、約3/4の余剰分については、一部FIT制度を活用して売電を行い、残りは一般売電を行っています。

また、スーパーなどの店舗から回収した食品廃棄物をコンポストファクトリーで堆肥にして農場に還し、またその農場で収穫した野菜を店舗で販売するという食品リサイクル法に基づくリサイクルループの取り組みも進めておられます。その他、小型家電に含まれる有用金属、希少金属の回収・リサイクル等にも取り組んでおられます。

参加者からは「再資源化されたものを見ることができたよかった」、「改めてリサイクルの大切さを感じる事ができた」等の声が寄せられました。エネルギー利用や廃棄物のリサイクル方法等についての理解を深め今後の活動に役立てるため開催したのですが、今後もさらに知見を深めていきたいと思っています。

最後になりましたが、大栄環境(株)の皆さま、大変お世話になりました。ありがとうございました。



バイオマスファクトリー



コンポストファクトリーと堆肥

大和川のきれい化

エコライフ分科会では、大和川のきれい化に長年取り組んできましたが、最近(令和5年)の奈良県の大和川水質マップでは令和29年に比べて、大幅な改善が見られ念願の大和川全支川でのBOD75%値(生物酸素要求量:水中の有機物が微生物によって分解される際に消費される酸素の量)の環境濃度5mg/L以下の達成が見えてきました。これは、下水道や合併浄化槽の普及や、浄化槽の管理が進んできたことによると思います。大和川のきれい化は、私達の住む衛生環境の改善と同時に河川の自然環境の改善にも寄与しています。



エコライフ分科会では、合併浄化槽の仕組みや水をきれいに使う大切さを知ってもらうために小学4年生の環境学習を令和2年から実施してきました。令和4年に橿原市立鴨公小学校、令和5年橿原市立香具山小学校、今年6月21日に五條市立五條南小学校を訪問しました。

五條南小学校は令和4年に五條市の3小学校が統合して出来た新しい学校で、そのうちの一つの旧五條市立野原小学校には令和2年に訪問しています。今回も浄化槽メーカーのフジクリーン工業株式会社さまには合併浄化槽のミニチュアを展示、浄化槽の仕組みの説明や水に関するクイズ形式の解説などをしていただき、分科会のメンバーである奈良県清掃事業有志会の皆様にはバキュームカーを校庭に持ち込んで説明していただきました。またパックテストで水の汚れを可視化できる水質測定も経験してもらいました。普段の授業と違い子供たちも2時間楽しみながら水の大切さを学んでくれたと思っています。



五條南小学校での環境学習の様子

エコライフ 分科会

京(みやこ)エコロジーセンター見学

7月19日に資源活用分科会見学会として、京(みやこ)エコロジーセンターに行ってきました。京エコロジーセンターは、1997年に開催された地球温暖化防止京都会議(COP3)を記念して2002年に設立されています。見学の目的は、体験型学習施設として市民への温暖化防止やごみの減量などの環境学習への取り組みを学ぶことでした。

建物自体がひとつの展示で、太陽光パネルでの発電や雨水の利用、複層ガラス・アースピットなどが取り入れられていて、各ポイントについては見学者への説明パネルが設置されていました。また、テーマごとの展示方法は、電気の使用とCO2とのつながりなど小学生が理解できるクイズ形式での展示が行われ、食品ロスや家庭から出るごみの戦後年代別排出量の具体例など、屋上ビオトープも含め「見て、触れて、感じる」展示がされていました。



京エコロジーセンター

また、環境の事を考える活動拠点として、環境ボランティアの育成にも取り組まれていて、ボランティアによる館内案内や企画運営するイベントの開催をされていました。

見学当日も気温が36℃を超えており、温暖化を体感する現在、改めて脱炭素・循環型社会を目指す上での取り組みのヒントをたくさんいただくことができました。

京エコロジーセンター イメージキャラクター



イラスト：ハイムーン工房



資源活用 分科会



地球の急激な気温上昇を表現した展示



家庭ごみの量と内容の年代別展示

自然体験教室「咲かなかったけど菜の花まつり」(実施団体:ほっとねっと)



自作ロケットストーブによる炊き出し訓練

2020年に田原本フィールドを返上してから、次なる菜の花プロジェクトの活動拠点を模索していましたが、昨秋より宇陀郡御杖村神末の新たなフィールドで菜種栽培を始めました。約一反の川沿いの休耕地を毎年半反ずつ交互に使う計画です。

およそ20年弱前に、この土地で菜種を栽培してよく実ったので、たくさんの収穫を期待していましたが、非常に残念ながら種を实らせることはできませんでした。150センチの柵で囲みましたが、結局は鹿の侵入を許し、また田舎の肥沃な土地と油断してほとんど施肥をしなかったことが原因と思われます。

本当なら種を収穫していたはずの5月30日、地元の若い林業従事者さんたちとご家族とともに、「咲かなかったけど菜の花まつり」を開催しました。



竹チップと米袋を利用した生ごみたい肥づくり講習

まず、まだ柵囲いをしている「菜の花が咲かなかった」現場の確認の後、菜の花プロジェクトの趣旨と今後の計画についての説明。そして非常時のための炊き出し訓練を兼ねてテント張り、自作のロケットストーブにより菜種油での天ぷら、ポップコーンづくり、そしてうどんをつくりました。

ちょうど火のコントロールに慣れた頃にはさらにお湯をわかして至福のコーヒーでこれからの農業、林業 談議に花を咲かせました。

最後は天理市の株式会社K's工房さんに持参いただいた竹チップで米袋を使った生ごみたい肥づくりの講習をしていただきました。

今年～来年こそは、この方法でつくったたい肥で菜種を実らせたいと思います。

自然環境 分科会



「やまと菜の花ねっと」

～菜の花だより・橘だより～



高野山に菜種油を奉納

7月2日、高野山金剛峯寺で菜種油の奉納式を行いました。奉納式は今年で10回目、「大和の国・菜の花エコプロジェクト」が世話役となり、「奈良追分コミュニティ」「さくらい菜の花プロジェクト」「エコ葛城市民ネットワーク」「山の辺の道ファンクラブ」「ナルク奈良」の6団体9名が参加しました。僧侶の謝辞・励ましの言葉に対し、今後も『自然を愛し、地域の歴史文化を愛し、世界の平和を願う』次世代を育み、持続可能な社会の実現に向けて「生涯ボランティア」の精神でSDGSを推進することをお誓いしました。



菜種油の奉納メンバー

奈良フィールド（活動団体:大和の国・菜の花エコプロジェクト 事務局 宙塾）



4月14日の「菜の花まつり」。
例年、ナルク奈良にも関わり続けていただきました。

奈良市を拠点として、奈良市地球温暖化対策地域協議会(通称NEW)の環境学習プロジェクトの中での活動を支援する「大和の国・菜の花エコプロジェクト」を立ち上げ以来17年間支えてきた、全国最大のNPO団体であるNALC(ニッポン アクティブ ライフ クラブ)の奈良県支部「ナルク奈良」が、今年から奈良県環境県民フォーラム会員として加わりました。ナルク奈良の菜の花プロジェクト支援の発祥地として大変感慨深く、心からお慶び申し上げます。同じくナルク奈良が立ち上げから中心となり10年近く支えている「山の辺の道ファンクラブ」はもちろん、今後は県民フォーラムのその他複数のフィールドで菜の花プロジェクトの活動を支援し、更にはその他の環境活動もサポートして下さることと、期待しております。

イベント情報：11月3日(日・祝)10:00～12:30「芋ほり、菜の花移植」



葛城フィールド（活動団体:エコ葛城市民ネットワーク）

2024年度も、菜の花プロジェクトをテーマとした環境教育「出前講座」を市内小学校(5校・4年生全クラス対象)で実施しています。

5月には、市内の各小学校で「菜の花の刈り取り」を行いました。この菜の花は昨年の11月に子どもたちの手で植えられたものであり、成長した菜の花を見て驚きつつも、自分のハサミを使って切り、はしゃいでいました。NPOは子どもを見守り、時には手助けや切り方のアドバイスをしました。

6月後半には、子どもとNPOが刈り取りし、乾燥した菜の花の「種落とし・搾油」を子どもたちが体験しました。まずは乾燥した菜の花を手にとって見てもらい、どのようにサヤに種が入っているのか、1つのサヤにどのくらいの数の種が入っているのかを真剣に観察していました。



足で踏み種落とし作業

次にくつを脱いだ状態で菜の花を踏んで、種落としをしてもらい、子どもたちは初めての感触に怖がりながらも、次第に楽しんでいました。その後、少量ずつ回収した種を搾油機に投入して、実際に搾油体験をしてもらい、搾油の際に出てくる油を観察したり、菜種油の搾り滓を匂ったり触ったりして喜んでいました。NPO、小学校、市役所が連携した出前講座で、子どもたちも貴重な経験ができたと思います。

また、4月6日に「菜の花まつり」を開催しました。

山の辺の道ファンクラブ

晴天に恵まれ菜の花畑を背景に4月13日、天理市渋谷町景行天皇陵の東側、山の辺の道沿道で「菜の花祭り」を開催いたしました。今年にはアースデイ奈良2024の「あちこち開催」協賛イベントとしても参画でした。イベント内容は、会員や地域の方々のご支援で、青空コンサートやハワイアン演奏、紙芝居、手話ソングをしていただいで盛り上げていただきました。

開催には沢山の方(約130名)が参加して頂き、大変大盛況でした。ファンクラブからは参加の皆さんに茶席や豚汁を提供、堪能していただきました。これからもファンクラブは自然の大切さを思いSDGsの内「陸の豊かさを守ろう」をテーマに推進していきます。



華やかなハワイアンなどで盛り上げていただいた菜の花祭り

桜井フィールド (活動団体:さくらい菜の花プロジェクト)

昨年絶好調だったナタネは、本年度は過去最低の収穫量でした。遂に連作障害が出たようです。4月には、NHKならナビ「奈良うまいもの探し隊」で菜の花プロジェクトの活動や「奈乃葉菜油」のレシピも紹介されたのですが、今までのような菜の花畑をお届けできなかったことが残念です。

里山再生は順調に進み、満開の桜の下で久しぶりに「桜まつり」を2日間にわたり開催しました。植樹した桜の成長に時の流れを感じ、穏やかなお花見を心ゆくまで楽しんで頂きました。



お茶会でゆっくりしていただいた桜まつり



満開の菜の花畑だが、収穫量は過去最低に



里山再生活動をチラシでPR

奈良追分コミュニティ

今年は、追分梅林の中、梅の木の間にも菜の花を植えました。きれいに咲いた菜の花の写真です。4月6日、7日には、追分菜の花祭りを開催しました。ナタネ油であげた菜の花の天ぷらは大人気で、子ども達も大喜びでした。

5月には、大和橘茶畑では、新芽がきれいに出ていました。6月には、ナタネの刈取り、脱穀をして、唐箕にかけました。



追分菜の花まつりでは天ぷらが大人気



新芽美しい大和橘の茶畑



追分梅林「菜の花畑」

橘プロジェクト (活動団体:なら橘プロジェクト推進協議会)

4月19日、近鉄奈良駅の近くにある林神社の「饅頭祭り」に参加させていただきました。饅頭祭りは、わが国最初の饅頭を作った菓祖神・林浄因命の偉業をたたえ、菓子業界の繁栄を祈る例大祭です。

奈良饅頭を販売の大和橘を使ってくださっている和菓子屋さんとともに大和橘の苗木、大和橘胡椒、大和橘麺などを販売させていただきました。

例年のことですが、4月には良い香りでお食事のお供ともなる大和橘の新芽が出てきました。5月には順調に花を咲かせてくれ、これまた良い香りに包まれました。花摘みは大量の蜂と蝶に囲まれながらの作業となりました。



林神社の饅頭祭りにて



垂仁天皇陵前で開花した橘